

寒川小学校支援 寒小レンジャー活性化事業

寒小レンジャー

補助金：400,000円

【地域課題】

さぬき市立寒川小学校は、旧石田小学校と旧神前小学校の統合により、平成31年に4月に開校し、今年で4年目を迎える学校である。開校前より広くなる校区、大きく変わる通学路に対して保護者や学校関係者は不安を抱いていたことから、児童の見守り体制として、保護者が信頼できる人物に依頼する形の新しい見守り組織として『寒小レンジャー』が平成31年3月に結成された。結成に際し、両校PTAでオレンジを基調としたジャンパー、ビブス、キャップを作成し、メンバーに着用をお願いしている。日々着用するジャンパー等も経年劣化から追加補充が必要となっている。

今後も児童の安全を見守ることにより安心して登下校できる状態にし、さらには近年希薄になりがちな地域住民と児童との交流、ふれあいが充実できるよう支援の体制を整えたい。



【事業内容】

- ・見守りの際に着用するジャンパー、ビブス、キャップを製作。
- ・『寒小レンジャー』の登録者へは本会のジャンパー等と学校長・PTA会長連名での依頼書・委嘱状を渡して、4月始業日から立哨をしてもらっている。
- ・学校主体で、保護者へ継続・新規登録を依頼している。
- ・本会の集会行事としては、学校との意思疎通・情報交換を目的に、6月下旬に『寒小レンジャー情報交換会』、3月には『寒小レンジャー感謝の集い』を行っている。
- ・見守りは、交差点や交通量の多い横断地点等の主要な場所には、必ずレンジャーを配置できるように調整している。



【今後の展開】

これまでは登下校の見守りが中心だったが、クラブ活動、昼休みや清掃時の見守り・共同活動、技能教科での技術指導補助等においても支援の幅がひろげられないかと考えている。

【実績】

◆寒川小学校への譲渡会

『情報交換会』でジャンパー等製作の報告、譲渡会を行いたかったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために開催できなかった。

代替事業として寒川小学校PTA会長、レンジャー長、事務局長の3名がレンジャーグッズを持参し、学校長に譲渡した。

◆登録レンジャー等への周知

登録レンジャーやPTA会員への周知・報告は、学校が作成する学校だよりの配布で行った。譲渡会の様子は、寒川小学校ホームページにも掲載されている。



「宇宙飛行士のお話を聞いてみよう。」

日本宇宙少年団さぬき分団

補助金：489,000円

【目的】

未来を担う青少年に、宇宙及び科学への探求心と向上心を促すとともに、人と人のつながりを大切にして絆を深め、豊かで平和な国際社会の構築に貢献できる人材を養成し、もって青少年の健全な育成に寄与する。



【事業内容】

①講演会

日程：令和4年7月16日
場所：源内音楽ホール

②天体観測

日程：同年11月6日
場所：津田八幡宮参集所
・御旅所



【実績】

①講演会

講師：宇宙航空研究開発機構（JAXA）
宇宙飛行士 大西卓哉氏

参加人数：316名

（内訳：市内43%、県内他市町55%、県外2%）

内容：大西宇宙飛行士がプロジェクターを使用しながら身近な宇宙、ISS（国際宇宙ステーション）での活動等を中心に分かりやすく説明。講演後は、参加者からたくさんの質疑応答が出て子どもたちも感動していた様子だった。

②天体観測

講師：星ソムリエ

参加人数：子ども17名、保護者12名

内容：はじめに施設内で、星座盤の見方、模型を使って地球から見た太陽・月の動き方を説明。外に出て、望遠鏡2台を使って天体観測。



【参加者の感想等】

- ①アンケートから「大変良かったので来年も機会をつくってほしい。話が分かりやすかった。お人柄に好感を感じた。さぬき市に来てくれて感動。」
- ②月のクレーターまで見えて、盛り上がった。

「あんたも解るスマホ教室」

さぬき市連合自治会鴨庄支会

補助金：470,000円

【地域課題】

現在、デジタル製品がなければ生活できないような状況であるが、自分のスマホを十分に使い切っていない住民が多いのではないかと。そこで、自治会という近い関係の仲間で、スマホ教室を実施し、若者と高齢者の集まれる場所と時間を提供して、住民同士のコミュニケーションを活発化させて世代間格差を払拭していきたい。

スマホ教室には、比較的若い世代も参加することから、若い人が高齢者をケアし、将来的に各方面でリーダーシップが取れるよう、人材育成のできる場所としたい。



【事業内容】

デジタル関連に強い住民がいることから、スマホ教室を有意義に実施することができる。

この教室を通じ、世代格差・デジタルデバイドを緩和するとともに、デジタルの恩恵を公平に行き渡らせたい。

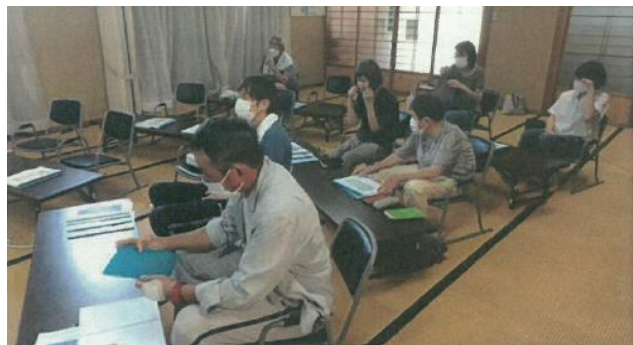
参加人数・実施内容については、「誰も取り残さない」精神をコンセプトに、鴨庄ふれあいプラザにて鴨庄支会を軸に活動を行いたい。



【今後の展開】

デジタルデバイドの解消を目的に、行政手続き等のオンライン化への対応、災害時における連絡体制・情報共有のためのコミュニケーションツールの構築等を目的に運営を行う。

さらに防災情報の取り込み方が分かれば、防災意識の向上に資するものがあると確信している。



【実績】

◆開催日程

令和4年6月14日～令和5年3月7日

◆開催場所、参加人数

①鴨庄ふれあいプラザ、延べ217名 ②泊室沖会堂、延べ200名

◆実施内容、工夫点等

LINEグループで通達・回覧や意見交換ができる「コミュニケーションの場」ができて活性化した。また、「マイナカード」の講座では、カード・ポイント申請を行い、疑問の解消やニーズに対応できた。この他、大規模地震を想定して「情報収集」、「避難経路」、「安否確認」などスマホの複数機能を利用した実践型講座を行ったことにより、全体で危機管理対策ができた。